

市制70周年のキャッチフレーズなどを聞き、自分なりにどう表現するかを考えました。向かって左側のモノクロの作品は、今の世の中を表現しました。僕は今の世の中の中に明るさを感じられませんが、暗いニュースが多くネガティブになってしまっていることもあります。そんな中でも、踏ん張って、力強く生きていこうという思いを込めました。苦しい中でも、強い信念や夢、希望を忘れたくないと思っています。

右側のカラフルな作品は、未来への希望を表しています。僕にとつての良未来、希望は、みんなが生き生きとして、大人がやりたいことをしていることです。子どもはみんな喜怒哀楽を持って素直に生きています。そんな姿がうらやましいし、大人もそうあるべきだと思います。周りを気にして、本来の素直な感覚を押し殺している大人が多いことが、暗くネガティブな社会につながっているように感じます。子どものようにみんな自分らしく生きていけばきっと明るい未来になる。そんな願いを込めて描きました。多様な色や形は、いろんな生き物がいて世の中は動いていることも表しています。みんな尊重して認め合えればいいと思います。いろんな人に作品を見てほしいし、明るく、やる気になってもらいたい。心を浄化できるものになればうれしいです。

4年前から子どもの学校の関係で、徳島県の上野市にある町で暮らしています。自然がいっぱいの場所です。自然に、健全に生きていこうと思うようになりました。本日はここにきて、自分と決めて進む生き方をしたいと思っています。今回のようなモノクロとカラーを分けて描き、組み合わせる表現は初めてで、挑戦でした。僕自身も歩み出す作品にしたいという思いがありました。これからアートイストとして前進し、挑戦していきたい。自分が「怖い」「不安」と感じる方に踏み出してほしいです。みんなが見たことのない作品を見せたいし、自分も見たい。ワクワク、ドキドキする方向に進んでいきたいです。

アーティストとして

都心から離れているけれど、昔は本厚木駅周辺にバルコが2店舗あって、BMXやサーフィンのお店などいろんなカルチャーがあり、刺激を受けました。自然もいっぱいバランスがよいと思います。今は日本中で同じような街が増えているように感じています。何かをまねる必要はないし、追いつける必要もない。厚木にしかないものを後世につないでいけたらいいのではないのでしょうか。作品にも思いを込めましたが、楽しそうな大人が多いまちがいいですね。子どもはそれを見て育つので。

未来につなぐ厚木の姿

井上純 さん
アーティスト
製作者



公開中
動画

70周年
記念特設サイトで
市内での創作風景を追った

いのうえ じゅん (43・上野出身) プロフィール
1981年生まれ。荻野小・荻野中・厚木西高・多摩美術大学卒業。2010年ナイキ本社の壁画制作。12年ファッションブランドMIHARAYASUHIRO/パリコレクションの舞台でライブペイント。その他、多数の企業とのコラボレーションや海外での個展開催など国内外で活躍。

※作品は②月③日から市役所本庁舎に展示

未来へ一歩 つながる あつぎ70年

キャッチフレーズを踏まえて、いろいろ考える中で、あつぎ結まつりのことを知りました。祭りの由来や歴史、多くの人に愛されている様子から、厚木を象徴するのになさわしいと思ひ、花火、鮎をモチーフにしました。デザインには、厚木を思う人々の気持ち、未来に脈々とつながっていくような願いを込めました。

十月に家族と一緒に初めて厚木に来て、川のある穏やかな雰囲気、私の実家がある長野県大町市に似ていてくつと親しみが湧きました。祭りにも行ってみたいです。鮎のつかみ取りは子どもが喜びそうです。

ロゴマークへの思い

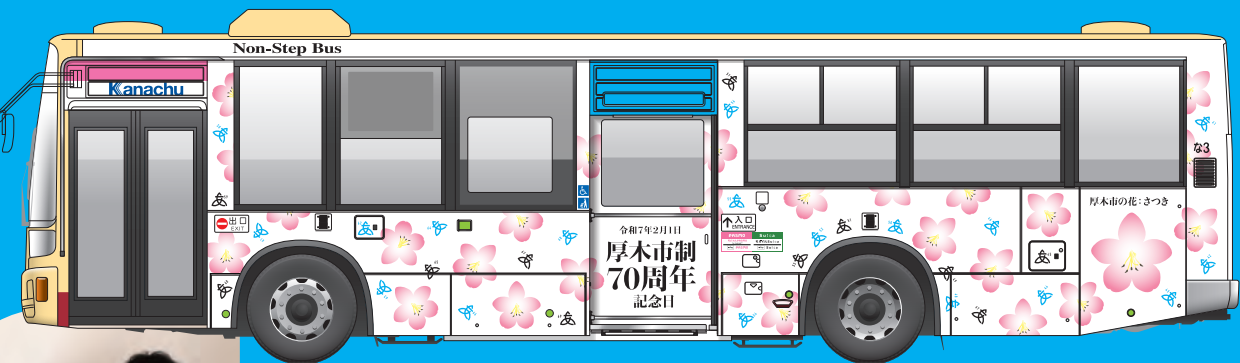
小竹 恵 さん
33・茨城県
製作者



戸室小学校に勤めていて、授業の環境で子どもたちと一緒にフレーズを考えて応募しましたが、まさか私のものが選ばれるとは思いませんでした。決まったら、街でフレーズを見かけたり、うれしいけれど不思議な気持ちでした。「つながる」という言葉を大切にしたい、子どもたちにも「人を大事にしてほしい」という思いで接しています。70周年をきっかけに、子ども、保護者、地域とつながっていき、厚木の良さに多くの人の目が向けばうれしいです。

キャッチフレーズへの思い

田熊 圭 さん
43・相模原市
製作者



デザインのモチーフには、厚木市の象徴である市章と市の花「さつき」を用いました。市章の横に1から70までのナンバーを添えることで、厚木市の過去から現在まで、70年間の歩みを表現しています。市章とさつきの花は、バスのボディラインに沿って有機的に配置されています。それらが集まり動きを、持つことで、厚木市民の姿を象徴しています。また、これらの配置には一定のルールを設けており、秩序ある社会の形成を表現しています。(もちろんルール通りでないものもあります、探してみてください。)バスを見かけた人々が、それぞれの厚木への想いや、未来への願いを思い描ききっかけとなれば幸いです。

鈴木 洋子 さん 49・厚木市
松村 剛司 さん 47・厚木市
製作者
デザイン事務所「ティラミス」

プロフィール
ラッピングバスや本厚木駅南口のサイン、この記念誌を手がけた厚木のデザイン事務所です。

ラッピングバスへの思い